

主 査 中谷康司

研 究 員 村上慎吾

客員研究員 赤羽悟美

1. 研究概要

生体の構造と機能を個体レベルで統合的に理解する「システム生理学」の観点から人の行動を理解しようとする研究班を2020年度に立ち上げた。運動生理学や応用生理学も踏まえつつ身体運動を科学している。

現在は、①フロー状態と呼ばれる没入感を伴う特異的かつ最適な集中状態に関する研究ならびに②登山やこれに関わる低酸素トレーニングなど極限下における身体機能に注目した研究に取り組んでいる。

2. 研究活動報告

■研究成果

論文発表

Satoshi Takinami, Yasushi Nakatani, Yumie Ono, Shingo Murakami

“Contribution of flow state to the discrepancy between perceived exercise intensity and physiological intensity during endurance bike exercise.”

BMC Sports Science, Medicine and Rehabilitation: 17, article number 273.

2025.9 DOI: 10.1186/s13102-025-01342-9

■学会・研究会出張

会議名：第10回低酸素セミナー

主 催：日本低酸素トレーニング協会

日 時：2025年10月6日～13日

会 場：オンデマンド形式

参加者：中谷康司

会議名：第103回日本生理学会大会

主 催：日本生理学会

日 時：2026年3月10日～12日

会 場：東京医科大学

参加者：中谷康司、村上慎吾、赤羽悟美

■国外調査

中谷が2025年6月16日～8月10日の期間、パキスタンに出張し、高所滞在中の旅行者・登山者における生理指標の長期測定を実施した。